

園庭で保育士と遊ぶ園児一名古屋市内の民間保育園



特集 すいよう

あまりにも低い保育園の職員配置基準。4～5歳児の保育士の配置基準は戦後70年以上変わっていません。「各年齢もう1人保育士を増やしてほしい」と保育士や保護者がともに声をあげています。

記事・写真＝加来恵子、堤由紀子、橋爪拓治

「子どもたちの命、大事に守り、大事に育て、こんな当たり前のことをもう諦めたりしない。子どもたちにもうひとり保育士と一緒に働く仲間を。」

いま集会や行動などで歌われる「もう一人行進曲」。作詞・作曲したのは愛知県にある緑の丘福祉会法人本部主幹で保育士38年の保母理英子さんです。

2021年、長引くコロナ禍、保育者の苦しさが増

もう1人保育士を

配置基準改善 保護者も一緒に声を上げる

す中で、愛知県内の保育園職員と保護者、公立・民間の労働組合などで「子どもたちにもう1人保育士を！実行委員会」を結成しました。

これまで、保育現場の実

態を広く知らせる取り組みを行い、配置基準の改定や処遇改善の署名を集め、国に提出。愛知県内の自治体の地方議会にも処遇改善と配置基準の改定を求める意見書採択を働きかけています。

命守り 大事に育て、

当たり前のことを諦めない

坂本将取さん



ゆとりが生まれれば一人ひとりの言葉聞ける

親として助けてもらった先生増で子どもも安心



下里世志子さん

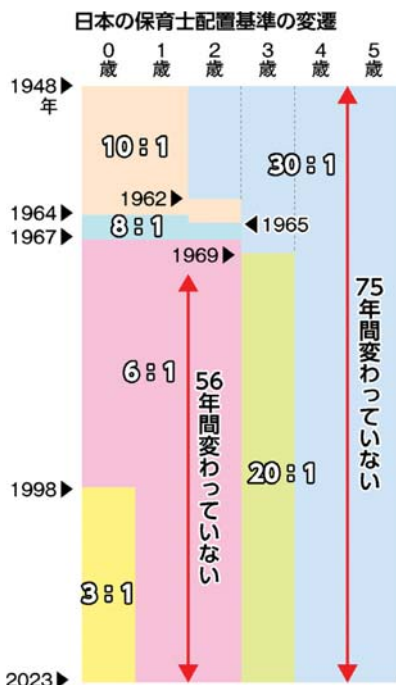


保母理英子さん

「コロナ禍で登園自粛になり、子どもが10人になったとき、一人ひとりが話している言葉が聞こえ、ゆとりがあると聞かせるんだ」と思いました。

保育士3年目の時、お散歩先で1人見失いました。遊んでいたところとは別の広場にいたのを見つけた。子どもがいなくなったらあんな恐怖は忘れられませんが、最低限、そういうことがないような配置に、一人ひとりの子どもの願いがかけられてほしい」と語り

「先生たちの処遇改善が子どもの安全や安心、環境改善につながります。だから応援したいし、目指すは配置基準の改善です」



育ちの保障 国は手だて早く

事故や不祥事が相次いでいますが、背景には人手不足があります。遊ばせながら片付け、親に対応しながら保育するなど「ながら保育」をせざるを得ないのが現状です。安心安全な保育と、保育士の働き方の改善のために「せめてもう1人保育士を」という願いは本当に切実なものです。

今の基準では安心した保育所運営が困難なことは、会計検査院も認めていることです。すでに現場では、子どもの命を守り、育ちを保障するために、それ以上の保育士を配置しています。まずはここに国がきちんと補助を出すことで、そして基準を引き上げることが、どうしても必要です。

日本共産党の統一地方選挙政策アピールから

0～2歳までの保育料も無償化し、給食費も含めた無償化をすすめます。職員配置の国基準の早急な改正を求めるとともに、自治体独自の手厚い職員配置をすすめます。保育・学童保育などのケア労働者の賃上げ・処遇改善をすすめます。

「先生たちの処遇改善が子どもの安全や安心、環境改善につながります。だから応援したいし、目指すは配置基準の改善です」

「先生たちの処遇改善が子どもの安全や安心、環境改善につながります。だから応援したいし、目指すは配置基準の改善です」



ゼロ歳児2人を相手に食事の手助けをする保育士一名 名古屋市内の民間保育園

